

「今月の1枚」



写真1 成熟したトガサワラの樹形。先端が反り返るような独特の樹形になる。



写真2 比較的若い木の樹形（奥の方の木）



写真3 トガサワラの樹皮。ツガと見分けにくい。ちなみに属名の*Pseudotsuga*は「ツガもどき」という意味。

幹は大きくなると直径 1 m以上になる。



写真 4 トガサワラの芽ばえ。林内にはあまり見られない。

トガサワラ（マツ科トガサワラ属） *Pseudotsuga japonica*

紀伊半島と四国の高知県にしか自生していないマツ科の絶滅危惧植物（VU）。

高知県では魚梁瀬、安田川山、西ノ川（にしのごう）山の3か所しか自生地がありません。稚樹は明るい場所を好み、伐採地や崩壊地などで更新します。

そのため、人為的に伐採地をつくるなどして保全を図っていく必要があります。

日本では絶滅危惧のトガサワラですが、北米に行くとダークスファア（*Pseudotsuga menziesii*）というトガサワラの仲間が幅をきかせており、ベイマツという名前で日本に大量に輸入されています。

（写真・文 酒井敦）

（No.233 2012.9.1 掲載）